

# みんなで守ろう！おらほの集落！

## ニホンジカ

あしあと



メスジカの数を減らす！  
これがポイント！

### ● 知っておきたいニホンジカの生態

- 『群れ』… 雄、雌同士の10頭前後の群れで生活し、餌を求めて季節移動をします。  
(夏と冬の餌場で数km～数10kmを移動します)  
秋の交尾期に一夫多妻になるためメスを捕獲しないと、数が減りません。
- 『からだ』… 嗅覚、聴覚は敏感で視覚と合わせて危険を察知します。  
運動能力は大変優れており、1.8m程度の柵は簡単に飛び越えます。
- 『食べ物』… 自分の周辺にある植物はほとんど食べます。  
⇒あらゆる農作物が餌となります。  
⇒つまり農作物被害は餌づけと同じで、シカが増える原因となります。
- 『生活』… 昼間は森林、夜は農地へ出てきます。  
元々が森林と草原を行き来する「林縁の生活者」です。  
1歳で繁殖可能で、毎年出産(1回1頭)するほどの高い繁殖力を持ちます。

## シカを人間界に近づかせないにする鉄則3

### 鉄則1「シカが来る理由を集落で取り除く」

森林に隣接する田畑や草原、造林地は格好の餌場  
⇒遊休荒廃地を出さない。  
水田等農地を集団化し、柵等で守る。

### 鉄則2「被害が多いところ⇒まず柵で囲う」

電氣的刺激 電気柵：ワイヤー式

長所 設置が楽

短所 ネット柵よりは高い、草刈が必要

物理的防除 ネット柵：2m以上の高さのネット、

長所 草刈の手間が減る(つる切は必要です)

短所 設置、撤去で労力がかかる、多い積雪には弱い。

### 鉄則3「とにかくメスジカの捕獲」

### ▼ネット柵



### 残念ながら効果が無いと分かっているもの…

木酢液、髪の毛、ラジオ、爆音機、センサー式防除機械、猛獣等の糞尿……などなど効果があっても一時的(環境の変化に警戒しているだけ)です。 ニホンジカはにおいや音、光を嫌うことはありません。

# イノシシ



あしあと

遊休荒廃地対策が  
とても大事！



## 知っておきたいイノシシの生態

『群れ』… オスは単独、メスは子や姉妹の5～10頭位の群れで行動します。

『からだ』… 助走をせずに高さ100cmを越える跳躍力と、50kgを鼻で持ち上げる力の持ち主です。視力はあまり良くないがとても鼻が利き、**鼻と眼で危険を察知**します。とても慎重で臆病な性格をしています。

**奥行きのある障害物は越えようとしません。**

『食べ物』… 人が食べる物ならなんでも食べる雑食性です。水田に多いミミズや、根もの野菜などを好みます。**遊休荒廃地のとなりにある水田や畑も最適な餌場**です。

『生活』… 本来は昼行性なので、危険(人、狩猟)がなければ**昼間も活動**します。餌場(落葉広葉樹林、**遊休荒廃地**、ぬた場、竹林)に数日滞在し、次の餌場を求めて移動します。

2歳で出産し、以後毎年出産。1～2月に交尾をし、5～6月に平均4～5頭産みます。

寿命はオス6歳、メス10歳位です。

これも  
効果アリ！



魚網などで**奥行き**、トタンで**視覚を遮断**！

## イノシシの被害を最小限にする鉄則3

### 鉄則1「餌場としての価値をなくす」

一度侵入した田畑は安全なところと考える餌場にして執着します。**最初の侵入を防ぐことが肝心**！集落でパトロールをし、餌付けや作物残さの放置禁止はもちろんのこと、遊休荒廃地の除草・藪払いを徹底しましょう。

### 鉄則2「田畑を集団化し電気柵で守る」

イノシシの習性を活かした効果的な防除方法は電気柵や柵  
電気柵：1反(約250m)の材料費

→約7～8万円(耐用年数約10年！)

設置時間も大人数人で1～2時間。何枚かの田畑を囲い、共同管理。→設置や草刈が大変な農家でも防除ができる！

### 鉄則3「狩猟や駆除で被害地の頭数を減らす」

条件が良いところではどんどん増えるイノシシ。被害が出た場所のすぐ近くで獲りましょう。

狩猟などの捕獲もお互いの緊張関係を保つ要素の1つ。でもハンターや駆除従事者となるには狩猟免許や登録が必要です。

市役所、町村役場にご相談ください。



▲イノシシ用の捕獲おり

錯誤捕獲防止用の穴が開いています。

## 残念ながら**効果が無い**と分かっているもの…

木酢液、髪の毛、ラジオ、爆音機、センサー式防除機械、猛獣等の糞尿……などなど効果があっても一時的(環境の変化に警戒しているだけ)です。**イノシシはにおいや音、光を嫌うことはありません。**

# ニホンザル



あきらめないで！  
積極的に関わろう！

## ● ニホンザルの生態

『群れ』… **群れごと**に、決まった行動範囲をもちます。メスは同じ群れで一生を過ごします。オスは大人になると、生まれた群れを出て「ハナレザル」になり、その後は**他の群れに移ります**。野生の群れには、動物園のサル山のようないわゆる「ボスザル」はいません。**群れの主導権はメスが持っています**。

『からだ』… 手足で物を握ることはできますが、本来は4足歩行する動物ですので、ヒトのように物を「投げる」ことは出来ません。しかし、運動能力・学習能力が高い動物です。

『食べ物』… 植物(果実・新芽など)を主に食べるため、**畑にある農作物**はサルにとっては「**ごちそう**」です。山に餌があっても、おいしい農作物の味を求め森から出て来ます。

『生活』… 日の出から日没までの明るい間に動きます。メスは6歳頃になると子供を産みはじめ、数年に1回、春から夏にかけて1頭ずつ出産します。サルは森と畑を区別しないので畑で楽に食べることを覚えてしまうと、**農作物に依存するサルを増やすこととなります**。

## サルを人間界に近づかせない鉄則3

### 鉄則1 「サルの餌場となるような環境にしない」

お供物のお菓子、取残した農作物や果樹の実、家庭の生ゴミなどもサルにとっては美味しい「餌」。放置せずに、深く埋めたり施設へ運んできちんと廃棄！

### 鉄則2 「農地・集落に近よらせない」

農地や集落には作物以外にもタンポポや畦のクローバーなどサルの餌がたくさんあります。餌場と覚えさせないよう、作物がない時も畦の草刈りを行ったり、追い払いを！

### 鉄則3 「農地・集落や人を怖いと教える」

「来てもメリットがない」場所にするため「**いつでもどこでも追い払い**」を合言葉に「ロケット花火や爆竹を打つ・ゆっくり森に移動させる」など徹底した追い払いを。

(※使用時にはロケット花火の向きや時間帯に注意する)



▲廃果を食べる (写真：県林業総合センター)



▲追い払い用ロケット花火発射筒



▲電気柵 (+と-の部分を同時に触れると通電し、衝撃があります)

数種類ありますが、高さ(2m以上)や電圧(5,000V程度)の確保、跳びこまれないように周囲の樹木を切る、草を刈り払うなどの「手入れ」は確実に！

▼長野式電気柵 (長野県農業試験場開発)  
ネットと通電線6段を組み合わせた簡易電気柵



(写真：長野県農業試験場提供)

# ツキノワグマ



## ●ツキノワグマの生態

『生息域』… 本州、四国に生息。九州では絶滅しました。

『行動圏』… 単独で行動します。「なわばり」がないので、複数のクマの行動する範囲が餌場などで重なり合います。30～110km<sup>2</sup>の範囲で移動します。

『からだ』… 体重は40～130kg。体が柔らかく、30cm四方の穴をくぐりぬけます。  
嗅覚・聴覚がすどく人間が気付く前にクマの方で察知します。

『食べ物』… 雑食性だが植物質が主。冬眠前は山林内のドングリ等を食べ脂肪をつけます。  
のため、キャンプ場のゴミや農地の廃果等にも居付きやすく、人里周辺に居座りつづける原因になります。

『生活』… 昼夜を問わず、活動と休息を繰り返します。本来、とても臆病なので、人里近くでは早朝と夜間に出没します。

## クマの被害を最小限にする鉄則3

### 鉄則1 「クマを誘うような物は片付ける」

取残しの果樹の実や生ゴミ等は放置せず、指定の場所に持ち込んだり、深く埋めるなど処理しましょう。山に入った時も、お弁当やお菓子等のゴミを捨てると、人間の食べ物の味を覚えてしまうので、かならず持ち帰ること！



▲被害作物も片付けましょう！

### 鉄則2 「音をたてながら、複数で行動」

とても臆病ですが、ばったり出会ったりした場合には、事故が発生することがあります。山に入るときや山際を早朝や夜間出歩くときは、ラジオや鈴を鳴らしながら、複数で行動するなど、「人間の存在をアピール」しましょう。



電池でも車の  
バッテリーでもOK！

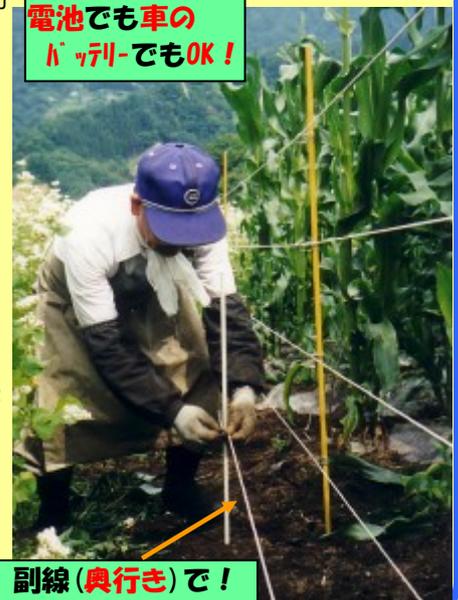
### 鉄則3 「農地に入らせない近づけない対策を」

今は性能のよい、効果のある電気柵が多数あります。地域で電気柵を購入し収穫まぎわだけでも、設置するなど、皆でクマの被害を防ぎましょう。

人間に依存させないことが大切です。

電気柵 →

- ① 手前に複線を張ると、地面を掘ってくぐる事が出来ません。
- ② クマが鼻先で探った瞬間、敏感な鼻に電気がピリッと伝わるのでとても効果的です。
- ③ 設置が容易です。



副線(奥行き)で！

# タヌキ



足の裏



タヌキ（前足）



タヌキ（後足）

## 知っておきたいタヌキの生態

『生息域』… 本州、四国、九州にホンダタヌキ、北海道にエゾタヌキが生息。東アジアに広く分布し、**森林や林縁、農地、人間の生活圏まで広く出没**します。

『行動圏』… 複数で行動します。ほぼ夜行性で、昼は木のくぼみや巣穴、軒下や排水溝も利用して休息します。オス、メスのペアと、その子供からなる群れをつくり、群れのメンバーは一緒に採食します。複数の個体が同じ場所に糞（ため糞）をします。

『からだ』… 体重は3～9kg、足跡は長さ3.5～4cmで丸っこい梅の花のような形。尾は10～20cm。

似た動物のアライグマの尾はシマがあり、髭が白いため区別できます。非常に驚くと、仮死状態になります。

毛の抜けたタヌキが目撃されますが、これはヒゼンダニによる疥癬に罹ったもので犬やネコなどのペットにも寄生します。

『食べ物』… 雑食性。果実、堅果、穀類、トウモロコシやトマト、昆虫、ミミズ、カエルやネズミなども捕食する。なんでも食べるため、**ゴミや農地の廃果が誘引物**となり人里に定着する原因にもなります。

『生活』… ほぼ夜行性で、**夜間は採食活動**に費やされ、昼間の休息を繰り返します。

繁殖力は高く、一回で平均4～5頭の子供を生まみます。

### ▼長野式電気柵

ネットと通電線を組み合わせた電気柵



(写真：長野県農業試験場提供)



## タヌキの被害を最小限にする鉄則

### 鉄則1 「定着させない！」

取残しの果樹や生ゴミなどは放置せず、指定の場所に持ち込んだり、深く埋め、埋めた上に網や板を置くなど工夫しましょう。エサ場にしないことが第一！。

また、放置した犬小屋、納屋、荒れた土蔵の床下などは格好の「住みか」。

なるべく住みつかれないう、住宅周辺は隠れ場所を少なく、床下は長い板などできっちり隠しましょう。床下に入った場合は、ほうきなどでおどして追い出しましょう。毒を盛って食べさせるのは法律違反ですのでやめましょう。

### 鉄則2 「農地に入らせない近づけない対策を」

タヌキはアニマルネット等のプラスチックを食い破ります。

そこで対策として電気柵を設置します。今は性能のよい、効果のある電気柵が多数あります。高さは、タヌキなら2段張り（地面から10cm、15cm程度）、それ以外の獣が一緒に出るのであれば、それらにあわせて段数を設定します。

地際からの農地への侵入を防ぎます。

起伏があるほ場ではポリエチレン製ネットの外側約10cmの位置（地面から15cm、30cm）に2段張りにします。

スイートコーンは野生動物の大好物（キツネも食害します）。タヌキは写真のように地面についた部分は食べないようです。

**なお、タヌキも木に登ることが出来、樹上の果樹類の被害も確認されています。**

# ハクビシン



(後) (前)  
あしあと



## 知っておきたいハクビシンの生態

『生息域』… ほぼ全国的に生息しています。

『行動圏』… 夜行性で、昼間は倉庫・廃屋・神社・家屋等の天井や樹洞などをねぐらにしています。**ねぐらは複数あり**転々と移動しますが、**工サ場の近くにある傾向**があります。

なわばりはもたず、行動範囲は30～70ha程度で、河川、用水路、側溝を移動することが多く、雨樋を登って家屋に侵入したり、電線を渡るときもあります。

『からだ』… 体長は約90～110cm、体重3～4kg。尾は40～45cm。体の大部分は灰褐色で短い四肢は黒色。その名のとおり額から鼻まで白い斑紋があります。

ジャコウネコ科で、運動能力に優れており、木登り、電線等の綱渡りが得意です。また、頭が入る隙間があれば侵入できますが、自ら侵入のための穴は掘りません。

繁殖は1年1回程度で明確な繁殖期はなく、平均1～4頭の子供を産みます。

『食べ物』… **雑食性**で果実や糖度の高い野菜ばかりではなく、昆虫、小動物、鳥類や卵なども食べます。**特に好物は果実**です。また、水をよく飲むといわれています。

『被害』… 農作物被害の他、民家の天井裏や床下での排泄による生活被害があります。

## ハクビシンの被害を最小限にする鉄則3

### 鉄則1 「寄せ付けない！」

- 落下果実、被害果実、規格外などで収穫しなかった「収穫後の残り」を農地に残さない。
- 家庭の生活ごみを農地や庭先に放置しない。ジュースの空き缶は水で洗ってから処分する。
- 放任されたカキの樹などの果樹は、地域で合意の上、できるだけ伐採する。
- 農地周辺の草刈り、河川や用水路の清掃。無人の人家や神社など「住みか」の見回りや侵入防止対策。
- 天井裏に入った場合、嫌がらせ（ライトを照らす等）をして追い出し、侵入口を塞ぐ。

### 鉄則2 「侵入を防ぐ！」

- 電気柵 地面から10cm間隔の3段張り。下段はなるべく低く張る。
- ネット+電気柵（参考：長野式電気柵 長野県農業試験場開発）は、アニマルネットを高さ90cmの位置で支柱に固定し、地面に10cm垂らします。ネット下部からの侵入を防ぐため、「突出しクリップ」を使用してネットの外側10cm、地際からの高さ15cm、30cmの位置に通電線を2段設置します。

### 鉄則3 「捕獲による被害軽減」

- ハクビシンを捕獲するには、原則として狩猟免許と捕獲許可が必要。（手続き等は地域振興局林務課か市町村にお尋ねください）
- 「はこわな」が扱いやすい。ブドウ等の地域で栽培されている果実を使用し、冬季はバナナを用いる。（飼猫の好物は避ける）
- 捕獲した場合、苦痛を与えない方法で処分し、死後は焼却処分するか、深い穴を掘って埋める。

▼長野式電気柵



(写真：長野県農業試験場提供)

# カラス



## 知っておきたいカラスの生態

日本には5種類のカラスが生息していますが、農作物被害が問題となるのは、主にハシブトガラスとハシボソガラスの2種です。

- ハシブトガラス もともとは森林に生息。近年、都市部での増加が顕著。  
くちばし…分厚く、太く、湾曲していて先がするどい。  
額 …盛り上がっている。  
鳴き声 …カアカアと澄んだ声で鳴く。  
歩き方 …地上での移動は両足でぴょんぴょん跳ねる。

- ハシボソガラス もともとは草原など開けた環境に生息。**農耕地に多く見られる。**  
くちばし…細めでまっすぐで先がするどい。  
額 …なだらかになっている。  
鳴き声 …ガアガアと鳴く。  
歩き方 …地上での移動は歩く。

『生息域』 ハシブトガラスは日本全国で、ハシボソガラスは九州より北の地域で一年中見ることができます。両種ともいろいろな環境に出現しますが、**ハシボソガラスのほうが田畑など開けた環境でよく見られます。**

『行動等』 繁殖期は3～7月で地上約10～20mの高さの樹上や高圧鉄塔に巣を作ります。秋から冬には若鳥を中心とする群れが多くみられます。数百～数千羽が林地などの「ねぐら」に集まって眠ります。

『食べ物』 雑食性で、昆虫や果実、鳥類の卵・ヒナなども食べます。その他、ゴミ集積場、家畜飼育場などで残飯や飼料等も食べます。

ハシブトガラスのほうが動物性の餌を好む傾向があります。

『被害等』 被害の対象となる作物は、果樹・野菜・飼料作物・穀物などです。ニワトリの卵を食べる、ビニールハウスを破るという被害も生じており、**被害の対象となる作物や内容がほかの鳥類と比べ多岐にわたるのがカラスの特徴です。**

## 鳥類の被害を最小限にする鉄則

### 鉄則1 「寄せ付けない！」

- 収穫後に残った果樹、摘果や落下した果樹は速やかに撤去し農地をエサ場としない。
- 家庭から出た生ゴミなどをエサとしてカラス類が集まることもあるため、コンポスト容器を使用しふたをきちんと閉める、決められたゴミの収集日に出すなど適切に処理する。
- 収穫しない野菜や果実だけでなく、すでに被害を受けた農作物も農地に放置せず、堆肥化やほ場へのすきこみ等適切に処理する。

### 鉄則2 「侵入を防ぐ！」

#### ○防鳥ネット（鳥類共通対策）

作物の種類や栽培規模により設置に係る労力・コストを十分考慮し設置の可否を判断する。

被害を及ぼす鳥類によって適正な網目の大きさのネットを用いる。（ヒヨドリ・ムクドリは3mm以下）

ネットと地面の間に隙間があると、中に入り込んでしまうため、隙間ができないようにする。

#### ○テグス等防鳥糸（カラス対策）

カラスは防鳥糸で防ぐことができる。

防鳥糸を使用する場合は、カラスが翼を広げた長さ（1m）より狭い間隔で張る。

# ヒヨドリ



## 知っておきたいヒヨドリの生態

『生息域』 日本全国で一年中見ることができます。

ただし、山間地や北の地方で繁殖する個体は、秋に平地や温暖な地方へ移動して越冬します。そのため、春と秋には渡りの群れが見られます。

『行動等』 繁殖期は5～9月で、地上1～5mの葉のよく茂った樹木の枝に巣を作ります。

繁殖期はつがいごとに分散していますが、冬期には数羽から百羽以上が集まることがよくあります。

『食べ物』 昆虫類や果実、花や蜜、葉野菜などを食べます。**甘いものを好み**、サクラやツバキの花の中にくちばしを差し込んで蜜をなめることもあります。樹木の若葉や新芽も食べます。

『被害等』 主に**果樹と野菜が被害の対象**となります。

関東以西では冬に個体数が増え、被害が多発します。特に野生の木の実が無くなる真冬～初春に**かんきつ類やキャベツなどの冬野菜に大きな被害が発生**します。

ヒヨドリはくちばしでちぎり取ったり、つついて食べるため、ちぎれた跡や鋭角の三角形の痕跡が残り、昆虫類による丸みを帯びた食痕とは区別できます。

# ムクドリ



## 知っておきたいムクドリの生態

『生息域』 九州以北に広く分布し、一年中見ることができます。

平地から山地の村落、山麓の林、草原、農耕地、果樹園、市街地、公園、庭園、ゴルフ場などに生息しています。

『行動等』 繁殖期は3月下旬～7月で、年に1～2回繁殖し、巣は人家の戸袋など建物の隙間や樹洞に作ります。

夏から冬には林地などに数百から数万羽が集まって眠りますが、近年は街路樹などに集まることが多く、糞や騒音が各地で問題になっています。

『食べ物』 **雑食性**で動物質では昆虫やミミズ、植物質では木や草の果実を食べます。

『被害等』 主に**果樹が被害の対象**になります。

ムクドリはショ糖を消化できないため、ショ糖濃度が高いかんきつ類での被害が発生することはありません。

なしでは品種により被害の発生に差があり、糖度が高く、果肉が軟らかい品種が被害を受けやすい傾向があります。

お問合せは … 長野地域振興局 026-233-5151(代) 長野農業改良普及センター 026-234-9534(代)

監修 信州野生生物保全センター

企画・編集・発行 長野県長野地域振興局

平成29年(2017年)

発行元：長野地域振興局 連絡先：026-233-5151